

## 言語と文化 17巻 : 言語・文化センターだより

出版者	法政大学言語・文化センター
雑誌名	言語と文化
巻	17
ページ	131-136
発行年	2020-01-30
URL	<a href="http://hdl.handle.net/10114/00022989">http://hdl.handle.net/10114/00022989</a>

## ▶ 言語・文化センターだより ◀

言語・文化センターでは 2018 年度に以下の企画を実施した。  
ご担当の鈴木正道先生と佐々木直美先生にそのご報告をいただいた。



言語・文化センター所属，国際文化学部教授 鈴木 正道

ローザンヌ大学教授ジル・フィリップ講演会

「学術出版と商業出版のはざまで：『プレイヤード叢書』の舞台裏」

Gilles Philippe :

Entre édition scientifique et édition commerciale. Dans les coulisses de la Pléiade

担 当 鈴木正道（国際文化学部）；協力者 竹本研史（人間環境学部）

司 会 澤田 直（立教大学文学部教授）

日時・場所 2018 年 6 月 7 日 17 時 30 分より BT0300 にて

参加人数 およそ 20 名

フランスの出版大手 Gallimard 社から「プレイヤード（Pléiade）」という叢書が出ている。小型で革表紙，インディアペーパーを特徴とするこのシリーズは，古典から現代ものまでフランスや他の国の作家の作品を収め，その数は 600 点を超える。詳しい注や解説及び手書きやタイプ原稿に基づく異本も載せたこれらの本は値段が高く，研究者向きという印象が強い。フランスのバリ第 4 大学教授などを歴任して現在はスイスのローザンヌ大学の教授を務めるジル・フィリップ氏は，サルトル，ジュネ，デュラスなど数多くのプレイヤード叢書の編集に携わっており，今回は編集者ならではの立場から講演を行った。

フィリップ氏によると，プレイヤード叢書の本は研究者というよりも「地方の公証人（notaire de province）」向けである。（フランスにおいて「公証人」は日本よりも人々の生活に密着した職業で，実態はともかく独特のイメージを

持つ。保守的でささやかながら堅実な収入に恵まれ、教養を磨く趣味を持つが今一つ垢抜けしない、など。かたやプレイヤード叢書の本に関しては、異本などは注釈者の判断により相当編集されていて研究者にとって一次資料とはいいたいがたい場合もある一方、地味ながらもしゃれたその装丁で見ているだけでも楽しい。) 特定の作家が好きというよりも「プレイヤード」を集めることに喜びを感じる読者がいて、売り上げを支えている。とはいえ読者は、注はあまり読まないようである。編集者としては、注が教科書的にも、論評的にもならない微妙な線を目指している。学校の教科書に載っているような解説は、わざわざ載せるまでもないし、作品を読みたい読者にとって論評は迷惑であろう。また商業戦略として、活字に飾り文字を用いたり、数巻にまたがる作家の場合は売れる作品とそうでない作品を抱き合わせにしている。

フランスでは、本屋によっては鍵のかかる棚に恭しく並べられているまさに objet-a のような存在でありながら、日本にはこれに当たるものが思い浮かばないプレイヤード叢書の舞台裏を見せてくれる講演であった。

# *Entre édition scientifique et édition commerciale* *~ dans les coulisses de la Pléiade ~*

法政大学言語・文化センター主催講演会

日時：6月7日（木）17:30より

場所：法政大学市ヶ谷キャンパス

ホアソナー・ドタワー 3 階

マルティニエディア教室 0300

（東京都千代田区富士見 2-17-1）

講演者：Gilles Philippe

（Université de Lausanne）

司会：澤田 勝（立教大学文学部）

講演言語：フランス語（通訳なし）

聴取費無料・事前申し込み不要

お問い合わせ先：鈴木 正彦（法政大学国際文化学部） [masahiro.suzuki@seio.ac.jp](mailto:masahiro.suzuki@seio.ac.jp)

